



新型コロナウイルスの収束が見通せない中、飲食店の宅配代行の需要が高まっています。

①世界で事業を展開する「Uber Eats (ウーバーイーツ)」が8月中旬、大分市中心部でサービスを開始しました。同社のサービスはどんなシステムでしょう？

### 飲食店 客数減 新たな販路期待 消費者 感染気にせず「店の味」

# 宅配代行県内で拡大

新型コロナウイルスの収束が見通せない中、飲食店の宅配代行の需要が高まっている。大分市中心部では8月中旬、世界で事業を展開する「Uber Eats (ウーバーイーツ)」がサービスを開始。先行する地場企業を追い、同市を中心に市場が拡大している。来店客数の減少に悩む飲食店や、外食を控えない消費者から支持されている。



ウーバーイーツ導入店から弁当を受け取る配達員の女性。8月8日、大分中津町のMOGUMAMA。撮影・船山肇弘

## 新型 コナ

大分市金池南の「太陽イースム」は昨年4月、別府市北浜で創業。同10月から別府市内の8店舗と提携し、フードデリバリーサービス「Paku Paku」を始めた。飲食店は料金の15%を手数料として、Paku Pakuに支払う仕組み。県内が新型コロナウイルスの第一波に見舞われた3、4月ごろに飲食店からの問い合わせが急増。大分市にエリアを拡大し、提携は40店舗に増えた。9月からは配達サービス大手「出前館」の注文も受け、配達を担う。代表の空哲平さん(42)は「感染拡大で外食産業が苦境に陥り、注目された。大分市内ではまだ市場開拓の余地が大きい」と分析する。コロナ禍では3密を避ける「新しい生活様式」が求められ、サービスに対する飲食店の期待は大きい。別府市北浜の焼き肉店

「韓国苑」は今年3月ごろから利用。店長の前田貴航さん(47)は「3、6月の売り上げのうち約10万円分が宅配サービス。元々テイクアウトに力を入れていたが、配達までしてくれるのはありがたい」と話す。小規模店にとっては日々の売り上げが資金繰りに直結。大手チェーン店のように自前で配達員を確保するのは難しい。大分市中津留で弁当店を営む神崎恵子さん(55)はウーバーイーツの提携前後で売り上げが約3割増えた。「一人で切り盛りしているのでも助かる」と感謝する。消費者側は料理代金にプラスして配送料もかかるが、満足度は高いようだ。Paku Pakuではほぼ昼食を注文する主婦の滝川彩乃さん(31)「同市田室町」は「子どもがコロナに感染しないよう外食を控えていない。自宅で地域のお店の料理が楽しめるのはとても便利」と話す。配達代行は多様な働き方でも注目される。佐々木祐野さん(30)「同市小池原」の本業は会社員。副業としてウーバーイーツの配達員を始めた。主に夜勤シフト時の日中に自転車を走らせる。「自分の好きな時間に、収入を得ながら運動不足を解消できる」と話している。(重岡晴実、船山肇弘)

②地場のフードデリバリーサービス「Paku Paku (パクパク)」代表の空哲平さん(42)は宅配代行の需要拡大について何と話していますか？

③宅配代行を利用している飲食店と消費者は何と話していますか？

・飲食店

・消費者